



大森二中だより

令和3年度 大森二中の合言葉「思いやり」
スローガン 笑顔満開 いつも心に太陽を！

令和3年6月号
大森第二中学校
校長 成清敏治
電話 3762-6456

「灯台下暗し」・・・身近な地域を知り、今を大事に生きよう

大森二中の学区域である「平和島」と「大森」について、少し勉強したいと思っています。まずは「平和島」。ボートレースや複合型アミューズメントパーク施設が代表的です。その昔、平和島駅の100mほど東は海でした。江戸時代の街道である東海道があり、美原通りなどは有名です。現在の大森海岸駅から平和島駅付近は、古くから潮干狩りの地として知られたそうです。明治時代の半ばには、海水浴場もできて、夏は特に賑わったようです。昭和に入って、この地域も埋め立てが始まりました。太平洋戦争により埋め立て工事は一時中断し、そこに大森捕虜収容所がつけられました。日本軍に捕らえられた米国軍人などは、この土地に押し込められました。米軍は同胞のいるこの付近を避けて空襲を行ったと言われています。捕虜収容所は戦後、一転して戦争犯罪容疑者の日本人が入れられる戦犯収容所（通称大森プリズン）となりました。開戦時の総理大臣である東条英機などのA級戦犯容疑者が約2ヶ月、ここに収容されていたそうです。その後、周辺も含めた埋め立てが進み、平和島競艇場が昭和29年にオープンし、近くに温泉会館やトラックターミナル、物流ビルなどができていきます。昭和42年に一帯の埋め立て地が大田区に編入され、平和島という地名が付けられました。今年で54年になります。歴史を振り返ると平和の尊さが強く実感され、この地名が付けられたと思われます。

続いて「大森」。編纂された風土記には、地名の由来として、大きな森があったとする説があります。鎌倉時代から確認できる地名で、戦国時代には小田原北条氏のもとで六郷殿が支配していたようです。江戸時代には、海岸沿いの村で、海苔や塩の生産が盛んでした。幕末には大森海岸に砲台を建設して異国の船を監視したこともあります。明治5年に大森村が誕生し、明治9年には大森駅が開設、その翌年に外国人モースが貝塚を発見し、今でも大森貝塚として残っています。明治以降、工場が次々に建てられ、人口は急速に増加し、昭和7年には大森区として発展します。そして、昭和22年に隣の蒲田区と合併し、大森区の「大」と蒲田区の「田」で大田区が成立しました。

平和島も大森も歴史のある町です。昔からの生活の営みが今ある風景です。過去の上に今は成り立ちます。そう考えてみると、今の一瞬はすぐに過去になります。自分の土台は過去の上に成り立つとすると、今の一瞬を大事にすることがとても大事であることがわかるはずです。
「明日やろう」ではなく、「今やろう」が自分の未来を大きく拓くカギになります。

今週は合同体育発表会、今月末は学年最初の定期考査があります。今を全力で頑張ってください。もがきながら悩みながら、人間は大きくなります。皆さんの成長を期待しています。



(全校朝礼 6月7日)